

# 新潟民商

新潟民主商工会  
新潟市中央区西樋3丁目10-14  
電話 (243) 0141  
13年11月18日

## 悪政を拡大で反撃！年末に向け読者・会員の拡大を！

目標は読者330名 会員55名  
新潟民商会長 高橋武昌

消費税は八%へ。一体私たちの生業やくらしは維持できますか。安倍内閣は次は一〇%に留まらず上げ続けるつもりです。また消費税課税業者の簡易課税を廃止すると言い出しました。どこまで我々から収奪すればすむのでしょうか。また、生活保護基準を1割も下げました。これによって六三事業に影響し制度内容の悪化が本心に心配です。そして、TPPで大企業やほんの一握りの国民は有利になりますが、国民生活の全分野で生活破壊がすすみます。農業だって競争力のある農政などといって減反補助金を打ち切り企業参入をすすめています。そして、まるで大日本帝国時代に逆戻りの法律・改憲解釈をすすめ本心に憲法を変え国防軍をつくり戦争をするつもりです。

私たちは、いま反撃です。組織としても我慢ならずこの悪政を許さない一大決意が必要です。組織拡大で安倍内閣を包囲する強固な組織にすることなしに私たちの生き残りはありません。

●年内に会員を55名増やす 読者を330名増やす……やりきろう。楽天だって東北大震災を力に優勝しました。私たちは組織拡大で倍返ししましょう！  
●税金・国税通則法・国保学習会をやりませんか。共済会学習会・忘年会なんでもいいんです。あつまってあつたかくなりませんか

## 中小業者支援求めて 産業政策課と懇談

中小業者と地域経済の振興策の強化を求め、六日市産業政策課と懇談しました。懇談は県連の自治体キャラバンの一環として持たれたもので、新潟民商の他、新津・西蒲・豊栄の民商が参加、新潟民商からは高橋会長ら四名の役員が参加しました。

業者を「地域振興の主役」と位置付ける中小企業振興条例を制定する自治体が多数になっているが

「条例があるないに関わらず、中小業者支援を行っている。振興条例の制定は考えていない」と回答しました。しかし、「業者団体・行政・関係機関で地域作りを話し合う場は大切だし、帯広市が中小企業振興条例で地域振興会議で反し合っていることは素晴らしいと思う」として話し合いの必要を認め前向きな姿勢でした。

業者は地域経済の中心的役割と理解している

また「小規模事業者の営業は非常に厳しいと理解している」「景況調査や製造業の実態調査の結果など、他の課との認識を共有する努力をしたい」としました。

## BRT・連節バス反対署名に大反響



篠田市長は、一台一億二千万円もする連節バスの契約案を十二月議会に提出しようとしています。市民からは「三十億円かけてやることか」「渋滞が増える」「かえって不便」と反対の声が広がっています。反対署名を十一月二十日に提出します。集まった署名は至急事務所に届けて下さい。

## 青年部・あと八名の拡大を

青年部部長 長崎誠

現在、新潟民商青年部では一月一七日に迫った全青協第三八回定期総会に向けた拡大運動に取り組んでいます。この間、懇親会や様々な学習会、名刺交換会や商工フェアでも実行委員に参加するなど、活発な活動を続けている青年部ですが、この八月の総会で三〇名近くの卒業者を失ってしまいました。そこで全青協総会までに何としても、県青協の増勢目標である一〇名の拡大を成し遂げたいと思っています。一〇月から拡大に取り組んでおり現在二名を拡大し、残り八名となっています。青年部では各支部の対象者を訪問中です。ぜひ皆さんの知り合いの四〇才以下の個人事業主、二代目の業者青年をぜひご紹介ください。会員ではない方でも訪問し、民商・青年部に誘いたいと思っています。

民商の活動をより大きく広げ、楽しいものにするために青年部の活性化は不可欠です。青年部の拡大へ、力添えをおねがいします。

## みんなで自主記帳をすませ商売を守ろう

### 大形支部記帳学習会

大形支部では、「国税通則法に対応した記帳を」「記帳で商売を守る」という議論がすすみ、先月から全会員を対象にした記帳学習会を開いています。

学習会は、毎年配られる自主計算の手引きと自主計算ノート、日計表を使い、参加者それぞれの記帳の仕方を交流しながらすすめています。

「レシートの保存の仕方はどうしたらいいの？」  
「レシートが無い場合は？」  
「こういった支払い経費になるの？」など、様々な疑問点を出し合っており、みんなで考えるのが特徴です。

また一月に開いた記帳学習会には高橋会長が飛び入り参加し、仲間を増やす行動の訴えをされました。これには参加者一同びっくり。高橋会長の訴えを真剣に耳を傾けていました。

支部役員会は「記帳の義務化の話はまだまだ知られていない。もっと広く知らせながら記帳の学習会の参加を訴えていきたい」と意欲的です。

## 温泉ツアーで健康講座

木戸支部

一〇日(日)、木戸支部では恒例の秋の日帰り温泉ツアーに合わせ、支部共済会としての健康講座を開催しました。今年は村杉温泉長生館、一六名が参加しました。到着後、長生館会議室で、講師に招いた木戸病院の保険師鈴木さんに主に生活習慣病対策について話してもらいました。糖尿病、高脂血症などの原因になる過度な肉食、飲酒の実例を上げ、緑黄色野菜、豆類、魚類の摂取が予防に効果的であることなどを解り易く説明してもらいました。

あいにく雨降りで寒い日でしたが、当館自慢のラジウム温泉にゆっくりつかり、みな体が温まったところで乾杯、互いに交流を深めました。また、共済の配偶者の未加入者について話題になり、二名の方が加入を検討することになりました。ヤスダヨーグルト継由で帰路。

## ☆商工新聞が待ち遠しい

元会員(曾野木支部)の神田十四男さん(七八歳)は病気でクリーニング業を四年前に廃業しました。闘病生活の中で、生活に張り合いが必要と考えて、見よう見まねで「俳句」と「川柳」をつくり始めます。挑戦の思いで「新潟日報」(毎週月曜日付)に投稿したら入選になり、その後も採用が続きます。その頃、病気の「うつ病」も回復してきます。今年の一月の日報では半期分(七月〜十二月)の俳句欄で見事、佳作に選ばれました。「ゆく年を惜しみて老いを深め行く」(撰者・黒田杏子)。

病気が回復してきたこともあり、今年の五月から「商工新聞」を再購読することになりました。「そうだ！商工新聞の文芸欄にも投稿しよう」と気持ちに張り合いが出てきました。五月川柳、七月俳句、八月川柳、九月川柳・俳句、十月俳句と連続入選です(商工新聞は月一回第四週目)。直近では十月二十八日付の俳句「アイロンの柄に五十年汗の染み」。

神田さんは新聞で入選を確認してから次回作を練ります。だから毎週の「商工新聞が待ち遠しい」のです。いまは新潟日報と商工新聞の川柳と俳句欄で常連です。いま短歌にも挑戦中です。病氣も治り、この元気を商工新聞読者のみなさんに「倍返し」しようと「頭の体操」の日々を送っています。